



# タコノキ

学名 Pandanus boninensis  
 科名 タコノキ  
 別名  
 区分 まちかど しょくぶつ  
 街角の植物  
 分布 おがさわらしょとう こゆうしゅ  
 小笠原諸島の固有種

説  
 明

おきなわ じせい じんせき おがさ  
 沖縄によく自生しているアダンの親戚ですが、小笠  
 わらしょとう こゆうしゅ しゅういしゅ しょうこうぼく は かんそう  
 原諸島の固有種です。雌雄異種の小高木で、葉は乾燥  
 つよ にくあつ とうけんじょう のござり きよし  
 に強いやや肉厚の刀剣状で、まさに 鋸 のような鋸歯  
 がついてます。きこん だ ねもと たくさん ぼう  
 気根を出し、根元は沢山のつかい  
 ささ み しょうか おうはくしよく おぼな  
 で支えているように見えます。初夏に黄白色の雄花、  
 たんりよくしよく めばな なつ すうじゅつこ かじつ かた  
 淡緑色の雌花をつけ、夏に数十個の果実が固まった  
 じょう しゅうごうか  
 パイナップル状の集合果をつけます。

は かたち  
葉の形

は ぶ ち きよし  
葉の縁 鋸歯

は さ き  
葉の先

は しゆるい  
葉の種類

は つまかた  
葉の付方

は き ぶ  
葉の基部

み しゆるい  
実の種類

しゅうごうか  
集合果

は な がくいろ  
花・萼色

おぼな おうはくしよく、めばな たんりよくしよく  
雄花は黄白色、雌花は淡緑色